



無所属
26歳

もっと!もっと

人に寄りそうグリーンな国分寺へ

鈴木ちひろ

鈴木ちひろプロフィール

1996年 3月11日 神奈川県藤沢市生まれ
 2016年 学生時代から日本語教師を始める
 2018年 フェリス女学院大学文学部日本語日本文学科卒業
 2019年 奄美大島へ日本語教師として赴任
 2020年 那須塩原市の「アジア学院^{※1}」にて有機農業を学ぶ
 2021年 いすみ市(千葉県)「ブラウンスフィールド^{※2}」にて自然に寄りそった農業生活
 2022年 国分寺市東元町 在住

※1 アジア学院:農村リーダーを育成する学校。世界中から集まった若者が有機農業をしながら共同生活を送る。

※2 ブラウンスフィールド:昔ながらの知恵を生かし、環境にやさしい暮らしを实践・提案するコミュニティ。

仕事 国分寺「カフェスロー」/ 重度障がい訪問介護
活動 国分寺市ジェンダー平等を考える会 / 地域と人権を結ぶ会「まち・ひと・わたし」/ 国分寺赤米会 / スローツアー / ゼロカーボンシティ国分寺の会 / ぶんぶんウォーク実行委員会
好きなもの 農作業 / 温泉めぐり / ハイキング / 歌うこと / フラメンコ / 散歩

鈴木ちひろさんを応援します

上原美咲 (国際交流NGOピースポート職員)
 宇都宮健児 (日本弁護士連合会元会長)
 大沢 豊 (NPOさんきゅうハウス理事長)
 漢人あきこ (東京都議会議員)
 汐見和恵 (元大学教授)
 汐見稔幸 (白梅学園大学名誉学長)
 須釜直美 (介護事業所スズガモ共同代表)
 鈴木朋恵 (でめてる店主)
 住田 綾 (フェアトレードショップEarth Juice店主)
 関野吉晴 (『グレートジャーニー』探検家)
 樋口健二 (報道写真家)
 福土正博 (東京経済大学元副学長)
 渡辺龍也 (東京経済大学教授)
 渡辺倫咲葵 (ゼロカーボンシティ杉並の会)
 吉岡 淳 (カフェスロー代表) 【50音順】



カンパ・ボランティア大募集!

グリーンな国分寺 TEL 090-8806-8311
 Mail chihirosuzuki311@gmail.com
 郵便振替口座: 00110-1-636203 名称: グリーンな国分寺



SNSでつながろう!

鈴木ちひろ 国分寺 で検索!

鈴木ちひろ 5つの提案

人に寄りそうグリーンな国分寺へ

1 若者の声がとどく市政へ

- 市独自の給付型奨学金の設置
- 孤独解消に取り組むNPOへの支援
- 予算権限がある若者議会の設置

2 ジェンダー平等の国分寺を

- 「パートナーシップ制度」の積極的活用
- 市の管理職へのクオータ制の導入
- 小中学校での性教育と生理用品の設置

3 貧困率削減へ多様な対策を

- 非正規の市職員の時給アップ
- 低所得者層への省エネ支援策
- 子ども食堂やフードバンクへの支援の拡充

4 気候危機対策の先進都市へ

- 無作為抽出の気候市民会議の設置
- CO2 削減の地域計画の作成
- 太陽光発電設置への支援策の拡充

5 農と自然でつながるまちづくりを

- もっと「こくベジ」を学校給食や病院食に
- 農家と子どもをつなぐ食育農業体験を増やす
- オーガニック給食の実現を目指す
- 野川を自然型河川にし、市民に憩いの場を

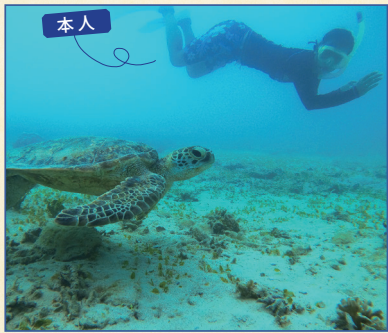
みなさんのご意見、お寄せください!



学生時代 ミャンマーの農村にて折り紙やダンスで交流。国軍のクーデター後、みんながどうしているのか心配。



日本語教師時代 日本語学校の学生たちと東京観光。その一方、入管問題・外国労働者の実態も知る。



奄美大島時代 スローライフに癒されるも、白化したサンゴを見て気候危機待ったなし!を強く実感。



有機農業時代 那須塩原市にて有機農業・畜産を学びながら、福島原発被災地をたびたび訪れる。

グローバルな視点を大切にし
ローカルな暮らしから始める
それが私の活動スタイルです



国分寺のみなさん はじめまして

コロナ禍での失業から学んだこと

2020年3月。コロナ禍のため留学生の来日が激減し、突然日本語教師の職を解雇されました。外国人留学生在が抱える日本での生きづらさや、人権問題や格差、差別に対しての問題意識を強くしていた矢先の出来事でした。

突然失業し、将来への不安を抱えつつも、奄美での暮らしは、とても豊かな日々でした。野菜を分けしてくれるご近所さんや、夕飯に誘ってくれる島の方々、そしてお祭りへの参加や、農業のお手伝いで、地域の「支え合い」の大切さを学びました。

奄美の海は素晴らしいのですが、白化したサンゴがあまりにも多いことに気づき、「地球温暖化」「気候危機」を強く実感しました。

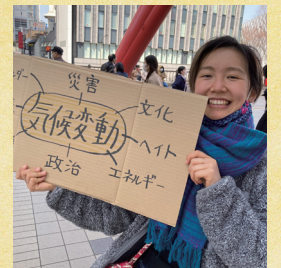
こうした人とのつながりや、豊かな自然を大切にする生活は私の原体験として、今の問題意識につながっています。

ローカルな暮らしの場から始めます

東京に戻り、緑豊かで新鮮な野菜が手に入る都市農業の根づく国分寺に魅力を感じ、このまちを生活の拠点に選びました。サステナブルな環境を育みながら、地域のつながりが強い、「支え合い」のまち、国分寺が大好きになりました。

気候危機やウクライナの戦争などと、地域の暮らしはつながっています。地域から仲間と一緒に声をあげたい。私たちが今後も安心して国分寺に住み続けられるよう、多くの市民が積極的にローカルな政治の場に参加し、ひとつひとつの課題を共に解決していく、そんな国分寺をめざします。

鈴木 ちひろ



仕事も活動も、やりがいのある日々を送っています!

国分寺大好き!



東海村にて原発・戦争反対アクション



クオータ制を推進する会で若者代表として登壇



西元町にて国分寺赤米の稲刈り



東元町のカフェスローで仕事



介護ヘルパーとして仕事